

平成29年度 済生館 医療福祉研修会アンケート結果

日 時 平成29年8月23日（水）18：30～19：50

場 所 山形市立病院済生館4階 大会議室

参加者数 68名

（内訳：福祉関係者33名・病院25名・訪看4名・大学2名・行政1名・その他3名）

アンケート回収数 55枚（80.8%）

研修内容

テーマ：「病院・在宅チームで取り組む退院支援～山形市版退院支援フローをもとに考えよう～」

退院支援フロー図について、事例紹介、パネルディスカッション

1. 所属機関についてお伺いします。いずれかに○をつけて下さい。

①診療所	②地域包括支援センター	③居宅介護支援事業所	④居宅サービス事業所
0 (0%)	4 (7.3%)	16 (29.1%)	6 (10.9%)
⑤地域密着型サービス事業所	⑥介護施設（特養・老健）	⑦病院・済生館	⑧その他（大学、業者など）
0 (0%)	0 (0%)	22 (40%)	7 (12.7%)

2. 職種についてお伺いします。いずれかに○をつけて下さい。

①ケアマネジャー	②社会福祉士	③保健師	④看護師
17 (30.9%)	12 (21.8%)	2 (3.6%)	17 (30.9%)
⑤精神保健福祉士	⑥介護福祉士	⑦医師	⑧歯科医師
1 (1.8%)	1 (1.8%)	0 (0%)	0 (0%)
⑨リハビリ職	⑩栄養士	⑪その他（薬剤師など）	
1 (1.8%)	0 (0%)	4 (7.3%)	

3. 本日の研修会の満足度についてお伺いします。いずれかに○をつけ、その理由をご記入ください。

①満足	②やや満足	③やや不満	④不満	⑤未回答
25 (45.5%)	26 (47.3%)	2 (3.6%)	1 (1.8%)	1 (1.8%)

<地域側>

- ・退院支援で医師・看護師にもわかって欲しいと思います。
- ・MSWの協力があることで良い退院状況になると思います。
- ・医療と介護の連携をとることの大切さの感じられるものでした。
- ・退院にむけてのツールが明確になっていると、CM側だけでなく、病院側も連携が図りやすくなると思いました。
- ・退院支援フロー図が便利だなと思います。早くテキストができればいいなと思います。
- ・日頃行っていることの確認ができました。
- ・医療側の退院支援の考え方や動きがわかり易かった。
- ・退院支援は毎回大変です。本人の状態が低下していたりすると、サービスの調整・追加と、いろいろ検討しなければならなくて、家族の受け入れが整っていればワケないのですが・・・。
- ・退院について、病院によって違いがあるので、病院に合わせて進めていくようになっていたので、このフロー図を元に共通していけばいいと思う。

- ・事例について、書面があれば良かったと思いました。フロー図について詳しく過程が記されていて、退院支援の理解を深めることができ、良かったです。
- ・地域で直面している課題が住民 10%程の独居生活を余儀なくされている高齢者の退院対応が困難な状況。事業所の役割を充実していかなければならないと考えている。
- ・内容が的確であった。
- ・ネットワーク、共有という意味では、まだ途中であると感じたが、意識が向いていると感じた点は有意義であった。
- ・フィードバックされた情報の行き先、Dr、Ns（外来？）と思うが。
- ・最近、私共も在宅酸素を通じて、訪看の方・ケアマネなどの関わりが増えてきております。皆様がどのような研修をしているのかなど拝見することで、在宅酸素をしている患者さんの支援に少しでも活用できればと思います。そういった意味で大変参考になりました。
- ・今から勉強を始めようと思ってますので、とても良いきっかけになりました。
- ・早め早めに介護申請をする傾向にあり、入院直後の申請だと介護度が重くなる。あと 1～2 週間経ったら、退院後なら、今の状況に合う介護度になるのと思う場面が多々ある。介護がないと施設選べないという理由だが、家族にとっても負担が多い（金銭的に）。
- ・包括だと、入院直後、連携室も通らず包括に相談に来る。MSW の方からとりあえず行ってみてと言われ家族が来るが、何の方向性（治療）も決まっていないう時があり、家族をお返ししてしまう事もある。
- ・事例について、もう少し連携の分かり易い内容の入ったものがあると、ディスカッションでも話が盛り上がったように思う。
- ・テキスト作成と完成を期待しています。

<病院側>

- ・地域へ繋いだ患者の退院後の状況のフィードバックを活用できていない。繰り返しの入院とならないよう、活用できるよう、太いパイプ作りが必要である。
- ・事例をもっと学びたかった。（1 例ではなく複数）
- ・初めて参加したため、大変勉強になりました。
- ・フロー図はよくできていると思いました。ぜひ広めていただきたいです。
- ・現状がわかってよかった。
- ・病院側からもケアマネジャーさんと連携するために大切なことを学ぶことができたと思います。
- ・多職種が同じツールを用いて退院を目指すことの重要性が理解できた。
- ・もっと現実的な問題点の検討をしてほしい。
- ・多職種の視点・意見を聴くことができて良かった。
- ・地域のチームとより良い連携ができるようにすることが自身の課題だなと思った。
- ・フローをもとに、退院支援がしやすくなるかと思います。
- ・病院で働いていることもあり、居宅についてわからないことがたくさんあります。フローを見て、たくさん学ぶことができました。
- ・進行スムーズでとても勉強になりました。
- ・症例・事例報告が具体的でわかりやすかった。
- ・退院支援のフローがわかりやすく書かれている。

4. 参考になったこと、今後に生かしていけそうなこと等がありましたらご記入ください。

<地域側>

- ・基本として各病院、事業所がこのフローのような流れで支援へ繋げられるようになるといいなと思います。もう少し見やすいといいかなと思います。
- ・フロー図の完成を楽しみにしています。
- ・CM、病院の動きが目に見えてよい。
- ・退院直後からの効果的な関係性づくりのありかたなど考えさせられた。
- ・連携室を通さず病棟と直接となると、なかなか連携室のように情報共有が図れていないと感じることがありましたが、ツールができてくると、少しずつ理解も深まってくると感じました。
- ・退院支援がスムーズに行くと、在宅生活ができる人が多くなると思います。施設にしか入れない人もいるかもしれませんが、住み慣れた我が家へ戻ることができるような支援をしていきたいです。

- ・フローチャートがあることで、ケアマネ・病院側が情報共有できれば、より良い利用者の生活につながればと感じました。
- ・退院後の状況を連絡することについて、必要かどうか？その都度連絡して必要なことがわかれば、安心して連携できるのかと思った。
- ・皆さんの経験談、それぞれの立場から退院支援に向けての意見が聞けて、とても参考になりました。多職種間の協働しっかり行って行きたいと思いました。
- ・退院支援のフロー図を見て、自分が不足している部分が多々あることを反省しました。今後活用していきたいと思います。
- ・話にあったように、フロー図をもとにケアマネが一連の流れで対応することができ、HPでもその流れを踏まえて対応してくださるとスムーズなENT支援ができるのではないかと感じました。
- ・退院に向けてのHP内でフローが理解された。
- ・フロー図を拝見でき、皆様がどのようなことに留意しているのか少し理解できました。
- ・ケアマネの視点での退院支援に向けた考え方など学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・新人のCM等、包括職員の研修にも生かせる。

<病院側>

- ・フロー図を初めて見ました。今後に活かしていきたいです。
- ・各機関がどのような考えで退院支援に関わっているのか学ぶことができ、今後の退院支援に役立てると感じました。
- ・家庭での過ごし方を具体的に考えていかないと大変なんだと思いました。
- ・徳田さんの話の進め方・まとめ方、大変参考になりました。
- ・フローの活用。
- ・病院間でも同じようなフローを作成しており、連動できるとより理解の深まる、本人への支援が円滑となるフローになるのではと思いました。
- ・多職種連携と一言で言うのは簡単ですが、実際にやることは互いに時間を割き、大変な作業だと思います。でも、患者・家族が安心して生活できる場を考えることはとても大切で、2～3回と回数を重ねて信頼関係を作れるようがんばりたいです。
- ・退院後のフィードバック→今後どのような支援をしていけばいいのかふりかえりができ、次の支援にいかすことができる。
- ・入院当初より、退院を見据えた関わりをしていこう。

5. 研修全体を通してのご意見、ご要望、今後取り上げて欲しいテーマ等がありましたらご記入ください。

<地域側>

- ・このような機会が今後も事例を通してあればよいと思います。
- ・むらネットの活用、今後に期待します。
- ・入院時の情報提供書の内容：病院としてはどんな情報があれば良いのか教えて欲しい。
- ・今後、このフローを使用して、事例検討会をされたいいかがですか。
- ・退院前共同カンファ等に業者も呼んで頂けると、いろいろな場面での支援等（機器取り扱い含む）その場で解決できる事も多くあると思われます。
- ・総合事業が総合病院のDrにまで伝わっておらず、どうして介護保険でないんだと言われるDrもいらっしゃる。制度が変わっている事を医療者の皆様にも知っていただく機会を作っていただきたい。

<病院側>

- ・地域>病院と、患者への関わりの重心が移動している。病院全体、意識を変革していかなければならず、しかし、浸透がまだまだである。
- ・時間が長く、病棟からの参加者を募ることができなかった。
- ・パネルディスカッションとは何か？パネラーがディスカッションすること。
- ・医師に対しての研修が必要と感じています。医師が、在宅で過ごせる資源を知らなすぎます。
- ・ケアマネさんの現実的なご意見・要望を聞いてみたい。
- ・病院の機能によって、退院までの期間が短いこともありますが、院内多職種、特にDrにはこういう形で退院に繋がっているということを知ってもらわないといけないなと感じました。

- ・準備等ありがとうございました。村山地域の退院フローチャートも作成しているところですが、それとの兼ね合いはどうすれば良いのか。
- ・他職種の方のたくさんのご意見を聞くことができてよかった。退院 IC にケアマネさんを入れてくれると大変心強く、安心できます。